

白角河の
炭礦

大佛寺の
大佛

此間道路は概ね凹道、路面平かならず、幅亦一米突半乃至三米突に過ぎざるに、而も路側は斷絶地ならざれば急傾斜地、若くは小階段地を成し、臺地の處を除きては更に平坦地なく、殊に底角溝附近は、河即ち道、道即ち河の狀況なるが故に出水時の通過困難なるべし。地質は一般に黄土層より成りて、其の下層には往々泥岩、片岩の露出するもの有り、砥石竝に建築材料と爲すべく、黒きは石盤と爲すに適す。

地勢は武陵山の支脈中、北方に向ふもの三、其の中間各々谿谷を成し、邠州街路は即ち中支脈上を走るものなり。途上駱駝群の許多の製紙材料を載せて、西安より蘭州に到るに逢ふ。聞く大峪の西方約一里、白角河の附近に石炭を出し、一日約三萬斤を採掘すと云ふ。

二十一日、長武^{チャンウ}に着するの豫定を以て、午前七時三十分邠州を發す。蓋し明日よりは陝西省の地を去りて、甘肅省に入らんとするなり。長武は實に陝西省に於ける最終の宿泊地にして、甘肅省に入るの起點とす。前途尙ほ悠遠、知らず幾日の行程をか要する。

寒風旅客を吹き、騎馬肅々西北に向ひ、劉家灣^{リウチヤワン}、水廉洞^{スイレンドウ}、胡家郷^{コカキヤン}を経て大佛寺^{タイフオス}に到る。